F 1/

# 岩手県高等学校家庭クラブ，ホームプロジェクトの変遷—保育家族，家庭経営

岩手大教育　○清水　房　　郡山女大家政　工藤澄子
県立盛岡短大　大森　輝

目的　岩手県における高等学校家庭科の戦後史の4報として，戦後家庭科教育推進の役割を果してきたホーム・プロジェクトと学校家庭クラブの変遷を辿り，当該教育に対する学習者および指導者の課題意識とその背景にある生活の実態を明らかにしようとするものである。本報告は保育家族と家庭経営を中心とした課題70編に視点をあてて考察をする。

方法　中心資料は本県連盟の機関誌「家庭クラブ」の創刊号から27号（昭和54年）までの27冊とし，全国大会集録，クラブ10年誌，20年誌等を参考資料として考察する。内容領域は①被服②食物③保育家族，・家庭経営（住居を含む）の3区分とし共同研究者3名で分担する。更に各領域を考察するための観点を幾つかずつ設定し，その観点に従って時系列的に論述する。

結果（1）保育家族領域に係わる研究32編を①実態調査②生活習慣③観察記録④衣食住⑤保育環境・児童文化等に分類する。これら五分類中最多を占める④12編についてみると昭和30年代は離乳食に関する研究で占められているが，昭和40年代に入ると幼児の心身発達と関連させたおやつ，遊び等中広い研究へと発展している。続いて⑤9編についてみると初期（昭20年代後半）において取り組まれている子守改善は30年代には保育環境全般に及んでいる。（2）家庭経営（住居を含む）38編を①生活時間②労力管理③家計④更生利用⑤家庭生活全般（老人問題を含む）と五つに分類した。特に戦後間もない困窮時代の消費節約から約30年を経過して迎えた消エネ時代の生活課題解決学習。両者間の対比による考察は，ゴミ処理問題等も含めて古くて新しい問題を提起し，社会的背景を反映している。